

# 第2次小城市男女共同参画プラン策定

## に伴うワークショップ

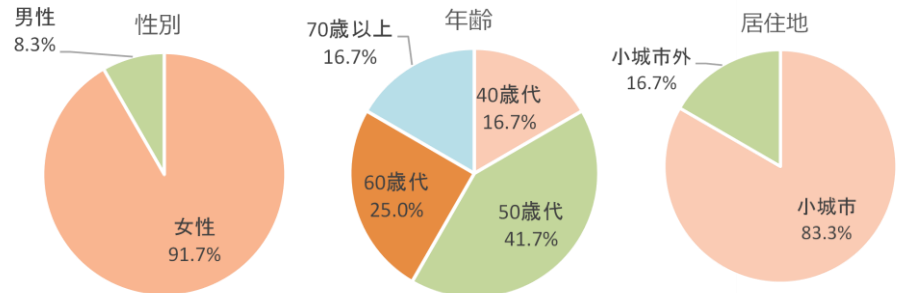
発行日：平成 28 年 6 月  
発行者：小城市 企画政策課

平成 28 年 5 月 28 日（土）、第 2 次小城市男女共同参画プラン策定のため、ワークショップを開催しました。

当日は、他の行事等が重なり、少人数の参加となりましたが、身近な視点で男女共同参画社会について、日常感じている違和感や気付き等を 3 つのグループに分かれて話し合いをしていただきました。

ファシリテーターの高崎恵さんを迎え、私たちひとりひとりが大切にされる社会づくりについて考えました。

### 参加者の属性



### 男女共同参画プラン(さくらプラン)

小城市では「家庭や地域・学校・職場などの様々な場において、女性と男性が対等な構成員とし、ともに喜びと責任を分かち合う男女共同参画社会の実現」に向けて、市民、事業所、行政が一体となって取り組むため『小城市男女共同参画プラン』を策定しています。

**基本目標** 男女がともに、認め合い、支えあい、希望あふれる小城市をめざして

**計画の期間** 2007(平成 19)年度から 2016(平成 28)年度までの 10 年間

I 誰もがわかりあうまちづくり

II 互いに支えあうまちづくり

III 共に創りあうまちづくり

### プログラム

1. 開会
2. 小城市男女共同参画プランについて
3. ワークショップ 『ひとりひとりが大切にされる社会とは』
4. アンケート記入
5. 閉会

### ファシリテーター



高崎 恵さん

1974 年鹿児島市生まれ  
かごしま女性政策研究会会員  
メディアで働く中で、多様性を尊重できない社会の在り方に疑問を感じ、2002 年より男女共同参画に関する研修等を行うオフィスピュアに所属。

男女共同参画関連講座における、ワークショップの有用性を実感し、学校、地域、自治体、企業等においてワークショップという学びのスタイルで男女共同参画を学ぶ講座を実施されている。

## ワークショップ

### 「I」 アイスブレイク

利き手でない方の手で名前書き



書いた名前を見せ合い、自己紹介と書いた時の感想を話し合う

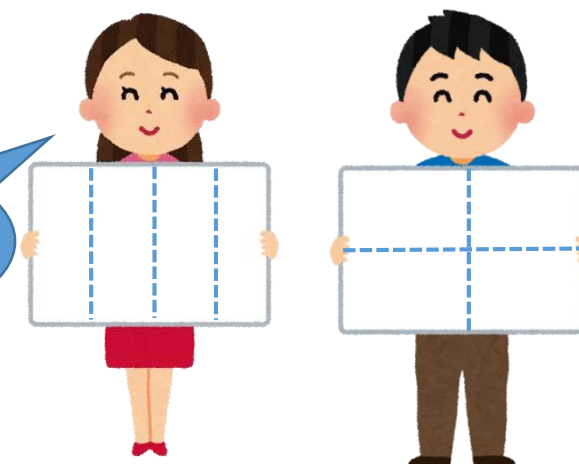
- 慣れていないことや初めてのことは誰にとっても難しい！
- 皆に初めてがあり、知らないことがあり、**最初からできた人はいません。**
- 慣れていないことや初めてのことに取り組んでいる人に対して非常に厳しい眼差しを向けていませんか？

### 「II」 ちょっと作業

「A4 の用紙を 4 分の 1 の大きさに折って切ってください」



同じ指示でも、人によって捉え方は違うよね！



### 「III」 男女共同参画について

4 枚に切った紙に男女共同参画の視点で考えられることを書く



それぞれ記入したことを話し合う

- **話し合いや発表って苦手**だね。
- 発表などが苦手なのは、人との”**違い**”を恐れているから。
- 日本人は、意見があるのに**言わずに黙ってしまう**人たちが多数。
- ひとりひとりみんな違う経験、やり方、考え方、学びを重ね合わせて成り立っていくべき。
- **対話を大切**にし、多様な考えを持つことが必要。

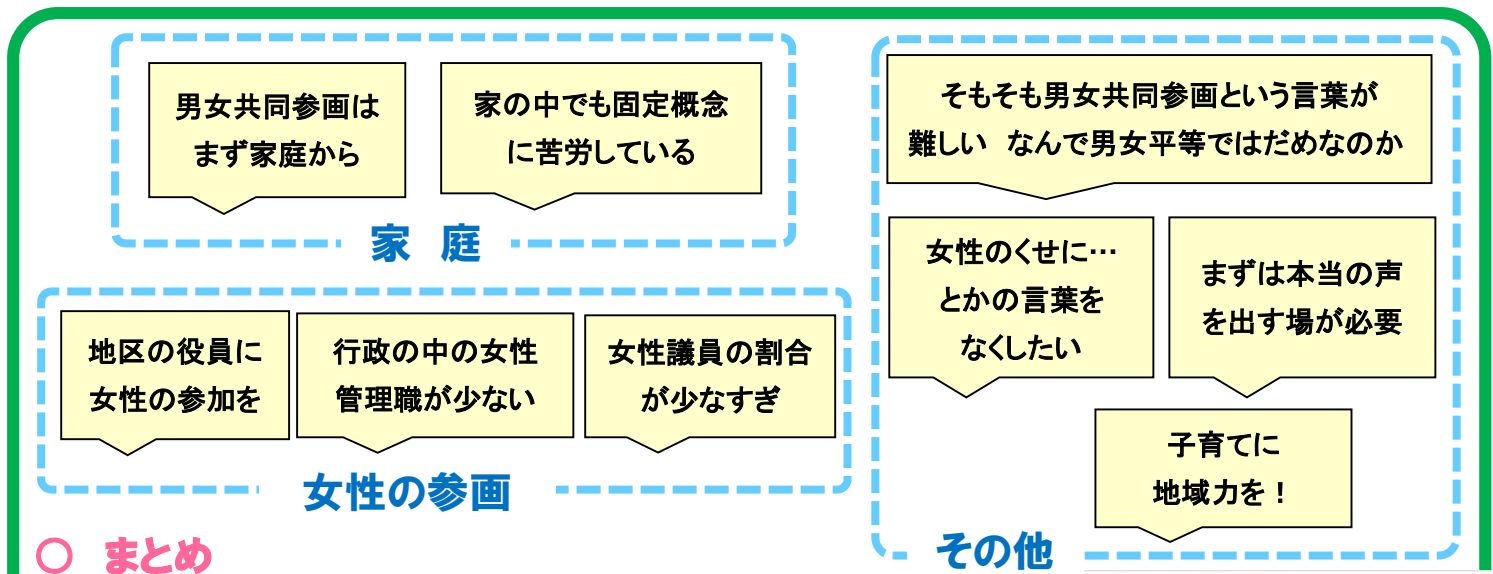


### 「IV」 発表

話し合ったことを発表！！

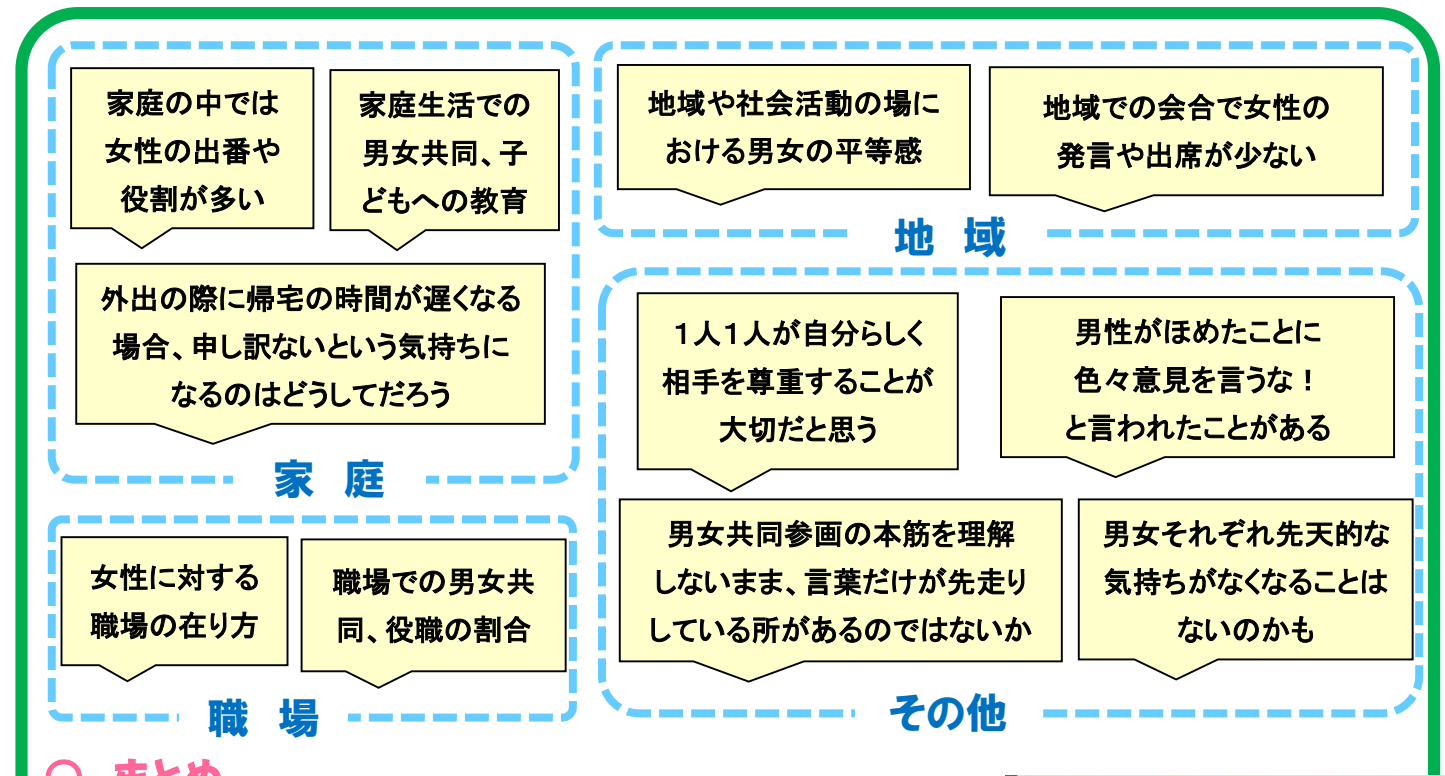
≪IV≫ 発表内容

男女共同参画について ~日頃感じていることや気づいたこと~



○ まとめ

- “まずは” という言葉、小さな 1 歩がとても重要。急には変わらない。
- なぜ男女平等ではなく、男女共同参画という名称なのかについては、法の上での平等はすでに整っているが、事実上ではなっていない。男女共同参画とは“事実上の平等”を目指している概念。
- 固定的性別役割分担意識の解消が大事。



○ まとめ

- 子育て中、働かないという選択をした母親からすると、現状の社会は「働かなければいけないのかな」と悲しい選択を迫られている状況があり、(本来、個人の選択に委ねられているはず)、陰で苦しんでいる人たちを救い出す視点というのが男女共同参画の視点。
- 社会の構造を変えていくことがとても大事。



≪VI≫ 最後に高崎さんから

男女共同参画を考えるうえでは、固定的性別の役割分担の解消を目指して社会の構造を変えていくことが大切です。性別、年齢、どこにいるかに関わらず私たちひとりひとりが大切にされ、幸せを実現できる社会づくりを目指しています。

みなさんひとりひとりが、男女共同参画という視点で行動できれば、地域をより良く変えていけるのではないのでしょうか。

参加者の感想(アンケートより)

- 違うことの価値を改めて実感しました。恥をかくことを怖れて、せっかく自分の中にあるアイデアを自分でつぶしてしまっているかもしれないことを改めて考えさせられました。まず、自分で取り組めることをできたらと思いました。
- 生活の自立、経済的自立が男女共に両方大切だということを改めて認識しました。
- 家庭、社会のあり方に問題点があり、その仕組みを変える事が必要。若い世代にもっと手厚い配慮を。
- 個人の問題ではなく、社会の仕組み全体が影響していること、ひとりひとりに優しい取り組みになっているのか、みんなで考えたい。働き過ぎて、利益を生み出す、便利な社会というのが、私達の生活にどんな影響を与えているのか。みんなで考えていきたい。伝え方にも工夫していきたいです。



○ まとめ

- ひとりひとりが寄り合い協力して暮らしていくことを目指すのは大事。小さな頃からの男女共同参画教育が大切。
- 残業は個人の力量の問題ではない。仕事の仕組みの変革が必要。
- 子育て世代への配慮。(労働時間の見直しや託児を設ける等)
- 自治会など工夫してみんなでやるべき、少しずつやり方の見直しを行う。

